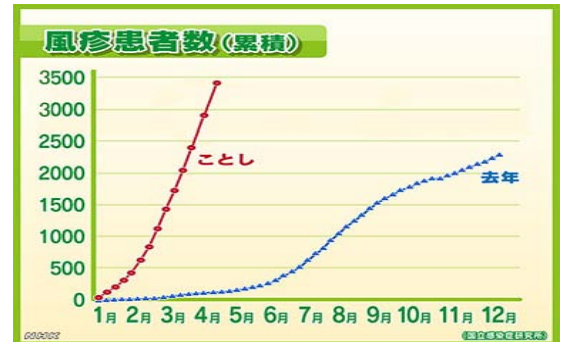


今年の奈良県風しん患者、すでに昨年1年間の1.7倍

国立感染症研究所は23日、今年の風しん患者数の累計が14日までで4068人になったと発表しました。最も多かった都道府県は、東京、大阪、神奈川、兵庫で首都圏が約65%、京阪神地区が約20%と都市部が中心ですが、奈良県でも徐々に患者が増加しています。



(国立感染症研究所資料)

本県の患者届出数、年齢分布、月別推移、地域

(患者届出数)

奈良県感染症情報センターの集計では昨年1年間で18名の届出数であったものが、すでに今年31名の届出があり昨年1年間の**1.7倍の増加**になっています。

(患者年齢分布、月別発生推移)

1月から4月の間に発生した患者は、男性22名、女性9名と男性に多い傾向です。また、男性の最多年齢層は30～39歳が8名(36%)と女性(最多年齢層：20～29歳5名(42%))とは少し異なる結果です。これは30代後半以降の男性は予防接種対象でなかったり、30代前半は個別接種対象であったりが原因と考えられています。

月別発生推移は1月0名、2月2名、3月11名、4月18名と3月以降に大幅に増加しています。過去の流行からは5から6月がピークのことが多く感染は**さらに拡大する恐れ**もあり、ご注意ください。

男 性		女 性	
20歳未満	1名 (5%)	20歳未満	1名 (11%)
20～29歳	7名 (32%)	20～29歳	5名 (42%)
30～39歳	8名 (36%)	30～39歳	2名 (16%)
40～49歳	4名 (18%)	40～49歳	0名 (16%)
50歳以上	2名 (9%)	50歳以上	1名 (11%)

(発生地域)

患者発生地域は、吉野および内吉野保健所管内を除く郡山、葛城、桜井保健所管内および奈良市保健所管内で同程度の発生が見られています。